シリーズ　しまねの遺跡　発掘調査パンフレット15

松江市近郊・大橋川周辺の弥生墓制

ー朝酌矢田Ⅱ遺跡の調査成果を中心にー

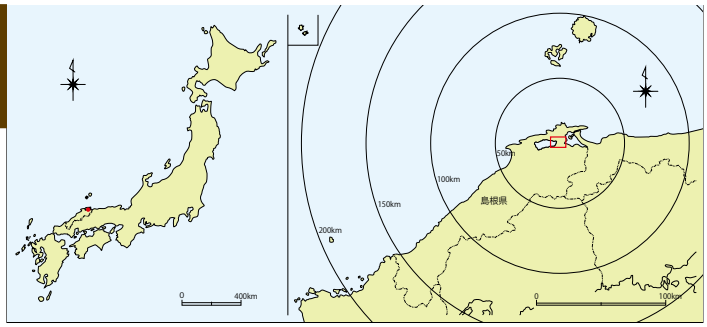
島根県教育庁
埋蔵文化財調査センター

はじめに　－松江市近郊・大橋川とその周辺－

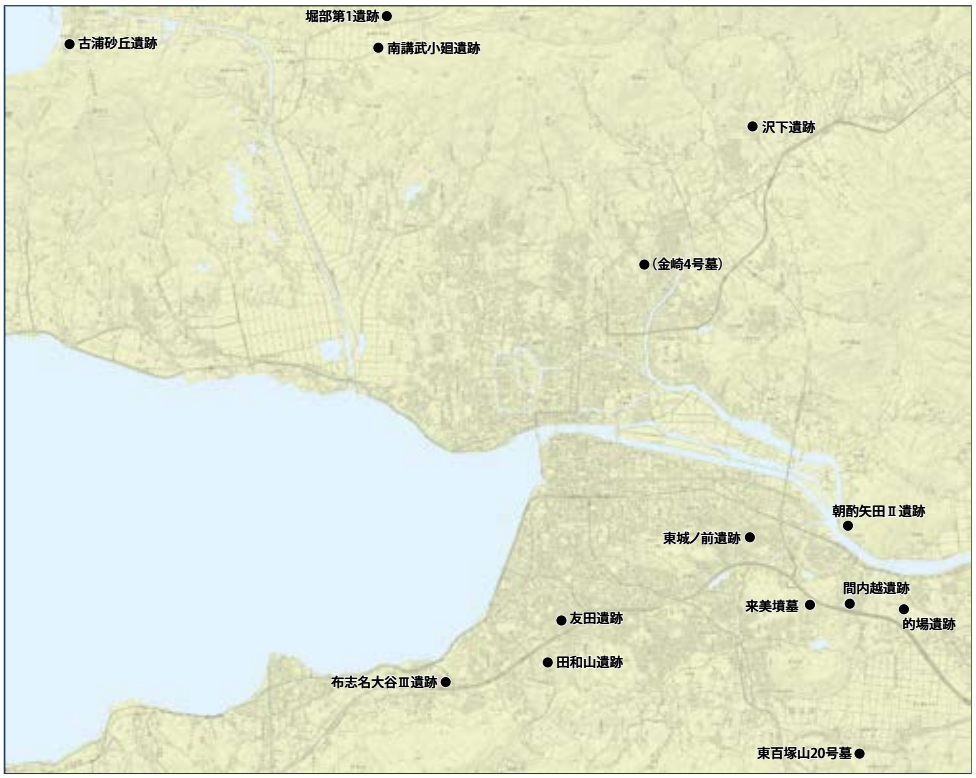
島根県の県庁所在地である松江市には、県内有数の遺跡が確認されています。とくに宍道湖と中海をつなぐ大橋川の周辺には、弥生時代の遺跡や墳墓が多数見つかっています。出雲の弥生墳墓といえば、大型の四隅突出型墳丘墓が見つかった出雲市の西谷墳墓群（国指定史跡）や、安来市の宮山墳墓群（国指定史跡）などが注目されていますが、松江市内には可能性のあるものを含めて10数基の四隅突出型墳丘墓が確認されています。

今回の遺跡パンフレットでは、令和５･６年度の朝酌矢田Ⅱ（あさくみ　や　だ）遺跡の調査で標石墓と四隅突出型墳丘墓が見つかったことから、松江市近郊と大橋川周辺の弥生墓制の特質について紹介したいと思います。

位置図



松江市内で弥生墳墓が確認された遺跡
（カッコは可能性のあるものを含む）



関連遺跡の弥生時代年表

暦年代		時期区分	松江市近郊・大橋川沿岸の遺跡	石見・隠岐・出雲の主な弥生墳墓	伯耆・因幡の主な弥生墳墓	丹後（北近畿）の主な弥生墳墓	できごと	朝鮮半島	中国王朝	BC
紀元前	1000	縄文晩期							西周（1027−770）	1000
		弥生早期					・BC770　周の都を洛邑に遷す	青銅器時代		
	700	弥生前期 前葉	・西川津遺跡 ・古浦砂丘遺跡 ・北講武氏元遺跡 ・堀部第１遺跡	・原山遺跡 ・沖丈遺跡			・BC651　斉の桓公、覇者となる			700
		中葉		標石墓の出現			・BC552　孔子誕生	三韓時代	春秋（770−403(453)）	500
		後葉	・佐太前遺跡				・BC494　呉の滅亡			
		末葉	(・朝酌矢田Ⅱ遺跡)			・七尾遺跡（区画墓）	・BC312～279　燕の東方進出			400
	400	弥生中期 前葉	・布田遺跡			・扇谷遺跡			戦国（403(453)-221）	200
		中葉	・田和山遺跡 ・友田遺跡	・中野美保2号墓（方形貼石墓） ・波来浜遺跡A-2号墓（方形貼石墓）	方形貼石墓の出現	・日吉ケ丘遺跡（方形貼石墓）			秦（221−202）	100
	100	後葉	・三成墳墓群 ・志谷奥遺跡（青銅器埋納）	・専光寺脇墳墓群（方形貼石墓） ・荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡（青銅器埋納）	・梅田萱峯（方形貼石墓）	・寺岡遺跡SX56（方形貼石墓）	・BC108　前漢武帝、朝鮮半島に楽浪		前漢（202−8）	
									新（8−25）	AD
紀元後		弥生後期 前葉	・田中谷遺跡	・猪目洞窟遺跡	・松原１号墓 ・新井三嶋谷１号墓 ・尾高浅山１号墓 ・洞ノ原１号墓 ・阿弥大寺１号墓 ・宮内第１遺跡	・三坂神社墳墓群	・AD57　倭の奴国王、後漢に朝貢し、印綬を受ける		後漢（25−220）	
	100	中葉		・順庵原１号墓			・AD107　倭国王師升、後漢に生口160人を献する ・このころ、倭国大乱			100
		後葉	・的場遺跡 ・平所遺跡（玉作遺跡） ・沢下遺跡 ・朝酌矢田Ⅱ遺跡 ・南講武小廻遺跡 ・東百塚山20号墓 ・来美墳墓 ・東城ノ前遺跡 ・布志名大谷Ⅲ遺跡 ・問内越遺跡	・青木１号墓（四隅突出型墳丘墓） ・大城遺跡（四隅突出型墳丘墓） ・安養寺・仲仙寺墳墓群 ・西谷3号墓（四隅突出型墳丘墓・王墓） ・中野美保1号墓（四隅突出型墳丘墓） ・宮山Ⅳ号墓	・青谷上地寺遺跡（拠点集落） ・西桂見墳丘墓（四隅突出型墳丘墓・王墓）	・大風呂南１号墓（方形台状墓・王墓）				
					弥生王墓の時代					
	200	末葉		・西谷９号墓（四隅突出型墳丘墓・王墓）	・糸谷１号墓 ・徳楽墳丘墓	・赤坂今井（方形台状墓・王墓）	・黄巾の乱（184） ・官渡の戦い（200～202）			200
		古墳時代 初頭	・社日1号墳	・土井・砂１号墳	・日原6号墳	・大田南２号墳	・AD239　女王卑弥呼、帯方郡に使いを遣わし、魏明帝に朝献を求める	三国時代	三国	
		前期		・神原神社古墳	・普段寺１号墳					

※赤字は松江市近郊・大橋川沿岸の弥生墳墓が確認された遺跡

❶ 弥生墓制の幕開け

古浦（こうら）砂丘遺跡

松江市鹿島町古浦の海岸砂丘に立地する弥生時代前期から古代の遺跡です。弥生時代前期から中期の集団墓で、砂丘に直接埋葬された人骨が、少なくとも60体以上確認されました。貝輪を腕に装着した子どもの人骨や、朝鮮半島南部の特徴をもつ土器が出土していることから、この地域に朝鮮半島南部や九州にルーツを持つ人々の入植があった可能性が考えられています。この遺跡では、弥生時代前期は仰臥屈葬で、前期末から中期は仰臥伸展葬で葬られていました。また、弥生時代中期になると、2m×2mのL字状の石列を墓壙の周囲に施すもの（66号人骨）も出現していることから、石を使った墓制の変遷も検討できる重要な遺跡です。

古浦砂丘遺跡遠景（中央の砂丘）　1

2号人骨ハイガイ製貝輪着装状態　2

66号人骨とL字状の石列　3

堀部（ほりべ）第１遺跡

松江市鹿島町に所在する県内有数の弥生時代前期の集団墓です。「長者の墓」と呼ばれる直径35mの独立丘陵の周囲に、約60基の標石墓が造られていました。標石墓とは、墓穴内に木棺・遺体を安置して墓穴を埋め戻した後、その上に石を方形に配置するお墓のことです。標石墓は、朝鮮半島の支石墓に源流を持つもので、九州北部と島根県で見つかっています（右下の参考図）。堀部第１遺跡から出土した土器は九州北部などの影響を強く受けたものであったことから、弥生時代前期の稲作などの弥生文化を伝えた集団の墓地と考えられます。

堀部第１遺跡全景　4

5
見つかった標石墓群（北東区）

19号墓木棺　6

堀部第１遺跡出土遺物　7

堀部第１遺跡の標石墓には、朝鮮半島の松菊里式土器や九州北部から丹後半島の日本海沿岸部に顕著な土笛が供えられていました。

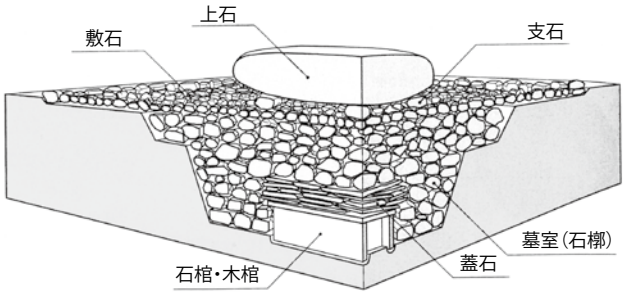
朝酌矢田（あさくみやだ）Ⅱ遺跡

8

9

朝酌矢田Ⅱ遺跡の標石墓（右は木棺の痕跡）

詳細な時期を示す出土品はありませんが、お墓の構造から弥生時代前半期の標石墓（配石木棺墓）の可能性が極めて高いものです。木棺の直上には標石が一つ置かれています（右の写真）。



（参考図）標石墓の源流と考えられる支石墓の構造
（端野2018）

友田遺跡

松江市浜乃木に所在する弥生時代前期末～後期にかけての遺跡です。遺跡内からは、弥生時代前期末から中期にかけての集団墓が見つかりました。埋葬された人々は、堀部第１遺跡のように一方向に頭位をそろえる傾向が認められ、墓壙上に標石を置く点など、弥生時代前期の標石墓の系譜を受け継いだ墓に葬られていました。また、標石墓が簡略化され、墓壙の周囲のみ配石が施されている墓（SK05など）もあることから、埋葬空間を明示する配石墓標への変化が読みとれます。

10
友田遺跡全景

配石墓標へ変化した標石墓（SK05）　11

❷ 弥生中期の墓制について －墳丘の成立－

方形貼石墓の出現

出雲では配石の変化により、標石墓（弥生時代前期）から方形貼石墓（弥生時代中期）への発展段階を追えますが、丹後では方形周溝墓に扁平な石を貼り付けた一辺が32mに達する方形貼石墓が突如として出現します。さらに、出雲の方形貼石墓には副葬品の乏しさが目立つのに対し、丹後の方形貼石墓では670点を超える管玉が副葬される方形貼石墓もみられます（日吉ヶ丘1号墓）。

このことから、出雲と丹後では方形貼石墓の成立背景が異なるようです。墳丘の規模や副葬品から、出雲の方形貼石墓は各地域ごとの有力者層の墓と考えられますが、丹後の方形貼石墓に葬られた人物は、丹後を広域に治めた王であった可能性も考えられています。

梅田宣峯1号墓　12

鳥取県琴浦町で見つかった方形貼石墓です。周溝の存在や扁平な石を貼り付ける特徴から、丹後の影響を受けた方形貼石墓と考えられています。

波来浜遺跡Ａ区２号墓　15

江津市海岸部の砂丘上に築造された県内で初めて見つかった方形貼石墓です。弥生土器をはじめ、銅鏃などが副葬されていました。

中野美保２号墓　16

出雲平野で初めて見つかった方形貼石墓です。この方形貼石墓に重なるように、弥生時代後期の四隅突出型墳丘墓（中野美保１号墓）が造られていました。

大量に副葬された管玉
13

京都府与謝野町で見つかった弥生時代最大の方形貼石墓。周溝がめぐる墳丘斜面には、扁平な石が貼り付けられていました。木棺内部からは、670点以上の管玉が見つかっています。

日吉ヶ丘遺跡SZ01（方形貼石墓）　14

益田市で初めて見つかった方形貼石墓です。墳丘の中心は山道で壊されていましたが、貼石を確認することができました。

専光寺脇1号墓　17

❸ 松江近郊・大橋川沿岸の四隅突出型墳丘墓

沢下遺跡

松江市東持田町の丘陵上に所在した墳墓群。弥生時代後期後葉の墳墓６基と古墳時代前期の古墳１基が見つかりました。このうち２基（５号墓・６号墓）が四隅突出型墳丘墓で、それぞれ貼石・敷石・列石が検出されています。５･６号墓とも一辺が約10m程度の規模ですが、６号墓の埋葬施設（第１主体部）からはヒスイ製の勾玉や緑色凝灰岩製の管玉が見つかっています。

６号墓（写真手前）　18

６号墓第１主体部
出土の玉製品　19

６号墓第１主体部　20

６号墓の貼石・敷石・列石　21

間内越１号墓

弥生時代終末期の一辺が約１０mの小型の四隅突出型墳丘墓です。墳丘の中央にある主体部直上には、40点前後の供献土器が出土するほか、墳丘裾にも大型の壺などが供えられていました。沢下６号墓でも主体部直上に土器の供献が行われていることから、墳墓祭祀の共通性が認められます。

間内越１号墓　22

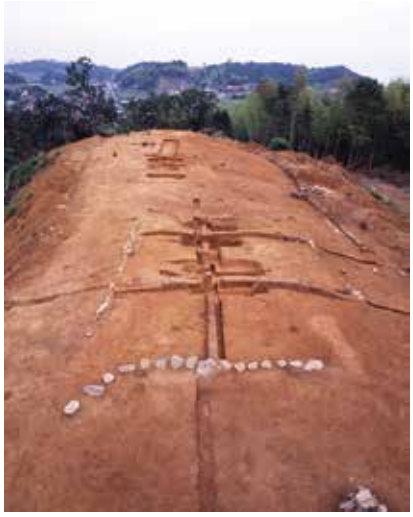
来美墳墓

弥生時代後期後葉の約10m×8mの小型の四隅突出型墳丘墓です。突出部を含めると13.5m×10.5m、高さは1.2～1.5mあります。墳頂部には、６基の埋葬施設が造られていました。このうち、墳頂平坦面の中央部の埋葬施設が最も大きく、箱形木棺が納められていましたが、副葬品はありませんでした。

来美墳墓　23

布志名大谷Ⅲ遺跡

布志名大谷Ⅲ遺跡からは、３基の四隅突出型墳丘墓が見つかっています。このうち１号墓は墳墓群で最も大きく、東西約10.5m前後、南北長約7.7m前後あります。この墳墓群では、埋葬施設の直上に標石が置かれるなどの特徴があります。



布志名大谷Ⅲ遺跡北Ⅰ区1号墓　24

さまざまな標石　25

朝酌矢田Ⅱ遺跡

朝酌矢田Ⅱ遺跡１号墓全景　26

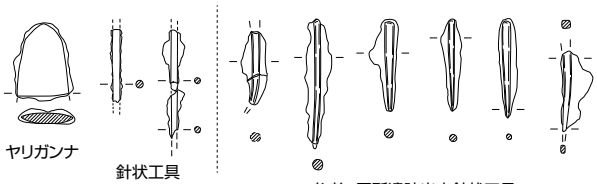
墳丘斜面および裾に施された配石　27

朝酌矢田Ⅱ遺跡は松江市朝酌町に所在します。大橋川北岸に立地しています。大橋川河川改修事業に伴い令和元年度より発掘調査を実施しました。

令和６年度調査では、弥生時代後期後半に築造された四隅突出型墳丘墓を確認しました。墳丘中央付近では被葬者を埋葬した穴（墓壙）を１基検出しています。この墓壙周辺からは鉄製工具とガラス小玉が出土しており、副葬品と考えられます。このお墓に伴う土器は確認できませんでしたが、確認した配石構造や副葬品から弥生時代後期後半に築造されたものと想定されます。

28

ヤリガンナの先端片
（木を加工するための細長い工具）



参考：平所遺跡出土針状工具

副葬品と関連資料（S=1/2）

朝酌矢田Ⅱ遺跡では、鉈（ヤリガンナ）と針状工具が副葬されていました。四隅突出型墳丘墓の被葬者に工具が副葬されることは珍しく、針状工具は大橋川南岸の玉作遺跡である平所遺跡との関連性も考えられます。

ガラス小玉

島根県内におけるガラス製品は現在のところ20遺跡で出土しています。これらの遺跡は、日本海沿岸や江の川といった大河川付近に立地していることが分かります。弥生時代には他地域との交流に陸路だけでなく、航路も盛んに利用されており、このような交通網付近で出土していることが想定されます。松江市域での出土状況をみると、朝酌矢田Ⅱ遺跡のほか、鹿島町の堀部第２･第３遺跡で出土しています。鹿島町は弥生時代には古恵曇潟と呼ばれるラグーン（潟湖）となっており、海上交通の拠点地域として機能していたことが想定されています。朝酌矢田Ⅱ遺跡についても入海を接続する大橋川沿いに立地しています。鹿島町同様に船を利用した交通の要衝上に位置しています。

当時のガラス玉は、素材がすべて中国や東南アジアなどといった遠隔地で生産されており、列島へは海上交通を利用してもたらされます。松江市域へもこのような地域間を結ぶ交通路を経由し、遠隔地よりもたらされたことが想定できます。

29

朝酌矢田Ⅱ遺跡のガラス小玉

島根県内ガラス製品出土一覧表（弥生時代）

No.	遺跡名	所在地	出土遺構	時期	器種	数量
1	門生黒谷Ⅲ遺跡	安来市門生町	SI07	弥生後期	小玉	1
2	朝酌矢田Ⅱ遺跡	松江市朝酌町	E区SB05	弥生後期	小玉	2
			K区１号墓埋葬施設（四隅突出型墳丘墓）	弥生後期	小玉	1
3	堀部第２遺跡	松江市鹿島町北講武	遺構外	弥生後期末～古墳初頭	小玉	10
				弥生後期末～古墳初頭	管玉	1
			SB04（掘立柱建物）	弥生後期末～古墳初頭	小玉	1
			SD01（溝）	弥生後期末～古墳初頭	小玉	1
			SD03（溝）	弥生後期末～古墳初頭	管玉	1
			SD05（溝）	弥生後期末～古墳初頭	小玉	1
			SD10（溝）	弥生後期末～古墳初頭	管玉	1
4	堀部第3遺跡	松江市鹿島町南講武	遺構外	弥生後期末～古墳初頭	勾玉	1
				弥生後期末～古墳初頭	小玉	2
5	南講武大日遺跡	松江市鹿島町南講武	SI05（竪穴建物）	弥生後期末～古墳初頭	小玉	1
6	西川津遺跡	松江市西川津町	SD07（溝）	弥生後期	勾玉	1
7	上野Ⅱ遺跡	松江市宍道町佐々布	SI10P15	弥生後期	小玉	1
8	北原本郷遺跡	雲南市木次町北原	SI05（竪穴建物）	弥生後期前葉	小玉	2
9	森遺跡	飯石郡飯南町頓原	包含層	縄文～古墳	小玉	1
10	矢野遺跡	出雲市矢野町	遺物包含層	弥生前期～古墳前期	小玉	1
11	山持遺跡	出雲市西林木町	７区⑤落ち込み状遺構	弥生後期後半以降	小玉	1
12	白枝荒神遺跡	出雲市白枝町	土器群６	弥生後期か	管玉	1
13	姫原西遺跡	出雲市姫原町	貝塚	弥生終末期	小玉	2
14	下古志遺跡	出雲市下古志町・古志町	SD03（溝）	弥生後期	小玉	1
15	西谷墳墓群	出雲市大津町下来原	３号墓第１主体（四隅突出型墳丘墓）	弥生後期後葉	勾玉	2
				弥生後期後葉	管玉	26
				弥生後期後葉	小玉	170
			３号墓第４主体	弥生後期後葉	管玉	20
			２号墓中心部	弥生後期後葉	釧	3
				弥生後期後葉	管玉	1
16	杉沢Ⅱ遺跡	出雲市斐川町直江	SI501（竪穴建物）	弥生中期後葉	小玉	6
17	御堂谷遺跡	大田市長久町・鳥井町	SI06（竪穴建物）	弥生中期後葉～後期	小玉	1
18	森原下ノ原遺跡	江津市松川町	遺構3001･3002（溝）	弥生	小玉	1
			遺構2217（竪穴建物）	弥生後期前葉	小玉	3
19	順庵原墳墓群	邑南町上亀谷	１号墳第１主体部（四隅突出型墳丘墓）	弥生後期前半	小玉	14
			１号墳第２主体部（四隅突出型墳丘墓）	弥生後期前半	管玉	2
				弥生後期前半	小玉	45
20	中小路遺跡	益田市安富町	SI05（竪穴建物）	弥生中期末～後期初頭	小玉	2

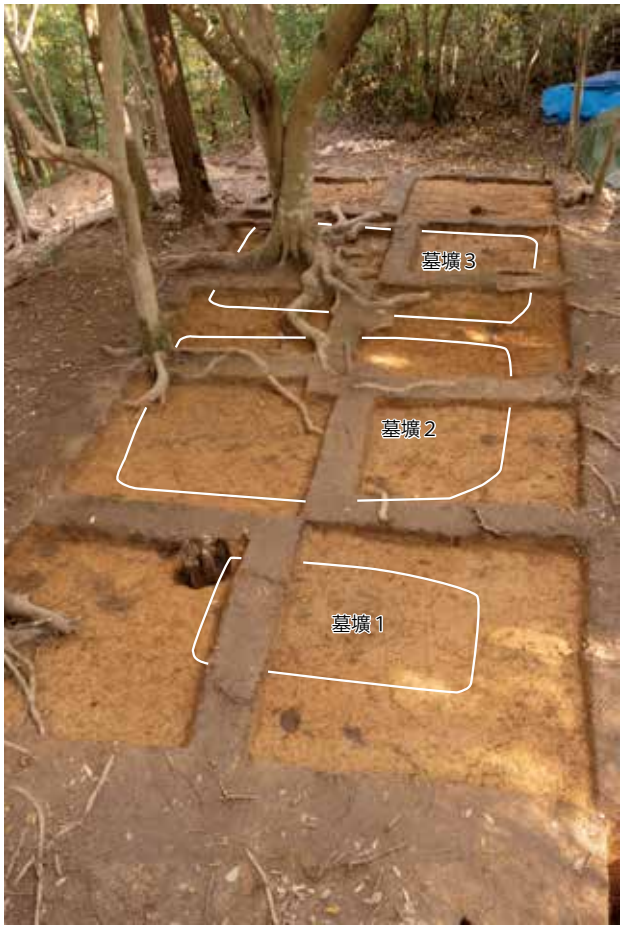
堀部第２・第３遺跡周辺の古環境（復元）

朝酌矢田Ⅱ遺跡周辺の古環境（復元）

東百塚山20号墓（県史跡東百塚山古墳群）

県史跡東百塚山古墳群は松江市大草町に所在し、意宇平野南の大草丘陵上に立地しています。隣接する西百塚山古墳群とあわせ、総数170基以上の古墳が分布しています。古墳群が造られる以前に築造された弥生時代の四隅突出型墳丘墓（東百塚山20号墓）の詳細を把握するため、令和7年度から発掘調査を実施しています。

調査の結果、四隅突出型墳丘墓は弥生時代後期後半に築造されたお墓であることがわかりました。発掘調査では四隅突出型墳丘墓の突出部や墳丘上の墓壙の様相を確認しています。



墳頂部平坦面の調査の様子　30

発掘調査の結果、長軸約15m、短軸約11m、高さ約1.5mであることが分かりました。墳頂平坦面からは３基の墓壙がみつかっています。

突出部の構造　31

突出部は北東隅部で確認しました。墳丘斜面に貼石を施し、裾には敷石と列石が施されていました。なお、突出部稜線上の配石は確認できていません。

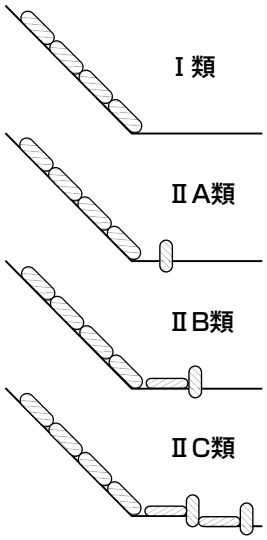
土器出土状況　32

墳丘南側から、ほぼ完全なかたちの甕が出土しました。この甕は、墳丘墓の築造時に後背丘陵との境に土坑を掘り、そこへ埋め置かれていました。このお墓が造られた時期を検討することができる貴重な発見となりました。土器の時期は、弥生時代後期後葉のものと考えられます。

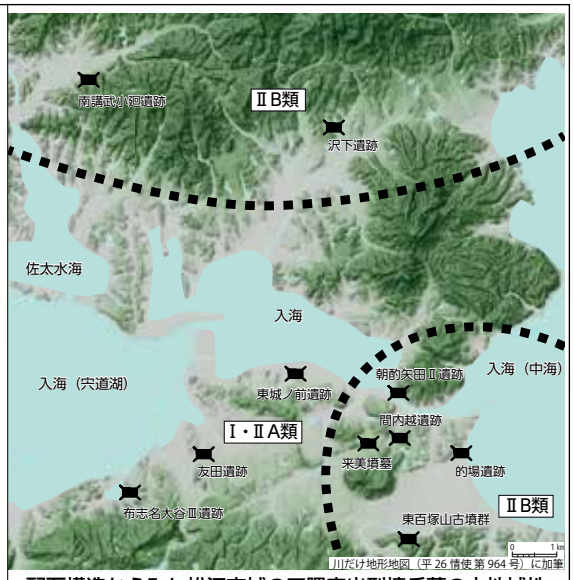
配石構造からみた集団関係

松江市では、県内で有数の弥生時代の遺跡が確認されています。とくに宍道湖と中海をつなぐ大橋川の周辺には、数多くの四隅突出型墳丘墓が所在しています。これらの四隅突出型墳丘墓に共通する特徴として、出雲市や安来市と比較して墳丘規模が小さいことが挙げられます。このことから、地域をとりまとめる大首長のお墓ではなく、小地域の首長のお墓として四隅突出型墳丘墓を築造していることがわかります。

これらの四隅突出型墳丘墓は墳丘斜面や裾に施される貼石や敷石、列石といった配石構造の共有関係から複数のグループに区分でき、地域的にまとまって分布していることがわかっています。このことから、配石構造のグループごとに小地域集団がまとまり、共同していたことも考えられます。



配石構造分類模式図
（松本2003より一部改編して作成）



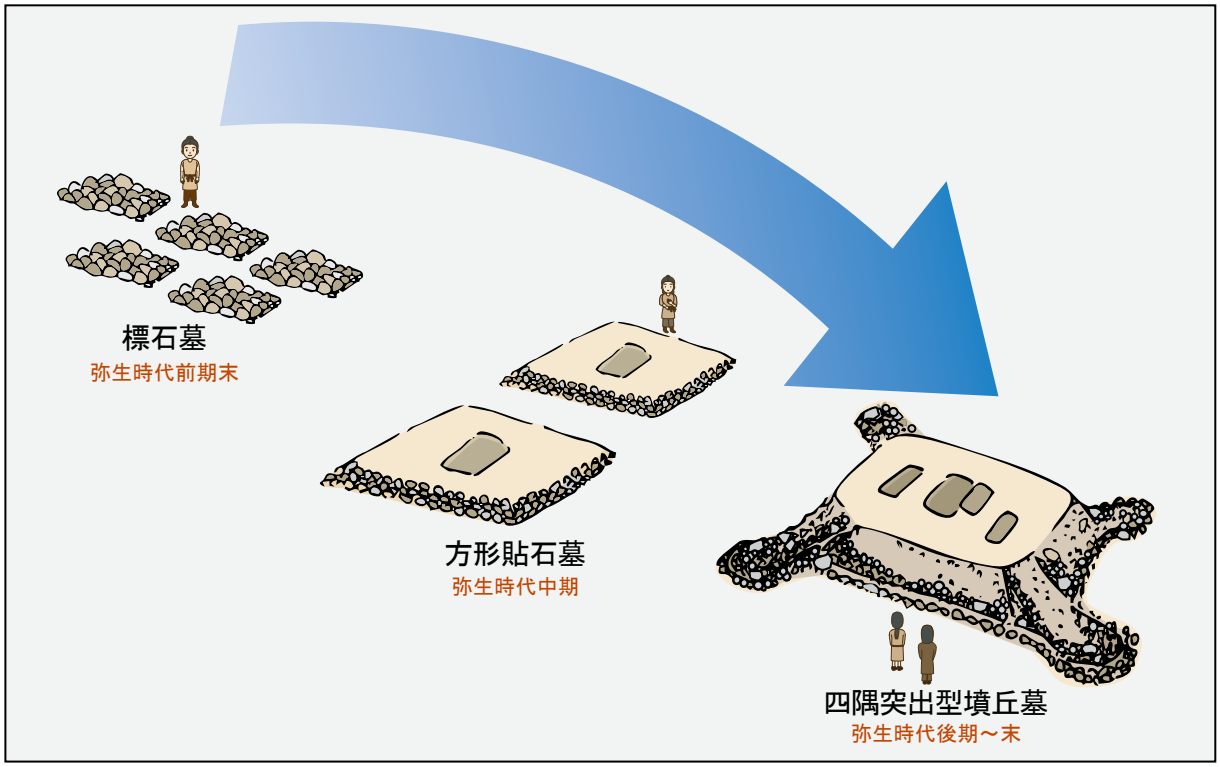
配石構造からみた松江市域の四隅突出型墳丘墓の小地域性
（岩橋2018を基に一部改編して作成）

❹ まとめ　松江市近郊・大橋川沿岸の弥生墓制の特質

松江市域には、弥生時代前期に九州北部を経由し、朝鮮半島系の墓制が伝播した後、中期後半に方形貼石墓、後期に四隅突出型墳丘墓が確認できます。島根県域において、弥生時代をとおして墓制の変遷がたどれる唯一の地域であり、弥生墓制研究上重要な地域といえます。

交易などの社会活動や地域的な集団関係といった当時の社会を把握するうえでお墓の存在は重要な手がかりを与えてくれます。鹿島町ではラグーン（潟湖）、大橋川周辺では入海を接続する重要河川付近に、対外交流を支える交通の要衝が存在しており、それらに隣接するように弥生時代後期には四隅突出型墳丘墓がつくられています。交通の要衝を管理する集団の首長へ権力が集中し、小型ながらも西谷３号墓（出雲市）などの大首長が採用する墳丘形態と同じ四隅突出型墳丘墓を築造していると想定できます。ただし、出雲市や安来市で確認できる大型規模の首長墓と異なり、松江市域では小型の規模が基本となり、かつ大橋川周辺ではほぼ同時期に密集して築造されています。これらの小型の四隅突出型墳丘墓はそれぞれ限られた地域を治めた首長の墓として評価でき、小地域の首長であっても墳丘墓を築造できるほどの権威をもっていたことを示しています。これらの首長権力を醸成した要因については今後の調査研究が待たれますが、その要因の一つとして、日本海を東西方向に結ぶ航路の結節点の一つという優位な地勢であったことがあげられます。日本海を介して運ばれるガラスや鉄などの貴重品を交通の要衝を管理する首長たちが入手し、それを分配することで首長の権威を強化していったとも考えられます。

弥生墓制の変遷



編集・発行　令和７（2025）年11月
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL (0852) 36-8608
E-mail　maibun@pref.shimane.lg.jp
URL　https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/

表紙写真：朝酌矢田Ⅱ遺跡1号墓
写真1～7・10・11・22・23：松江市埋蔵文化財調査課提供
写真12：鳥取県埋蔵文化財センター提供
写真13・14：与謝野町教育委員会提供

【参考文献】
岩橋孝典2018「第4章　東百塚山古墳群の発掘調査」『上竹矢7号墳・東百塚山古墳群・古天神古墳・安部谷古墳群調査報告書』島根県教育委員会
端野晋平2018『初期稲作文化と渡来人－そのルーツを探る－』
松本岩雄2003『出雲の四隅突出型墓』『宮山古墳群の研究　島根県古代文化センター調査研究報告書16』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター